

## 異常行動報告例の分析

表 2. 30 歳未満の報告数

	タミフル服用 なし	タミフル服用 あり	計	確率値
3/20 以前	24	69	93	0
3/21 以後	23	12	35	
計	47	81	128	

通知前後で、タミフルの服用の有無別異常行動報告数の比率が有意に変わっている。

表 3. 10 歳未満の報告数

	タミフル服用 なし	タミフル服用 あり	計	確率値
3/20 以前	12	27	39	0.543
3/21 以後	7	10	17	
計	19	37	56	

10 歳未満では通知前後で、タミフルの服用の有無別の異常行動報告数の比率は変わっていない。

表 4. 10 代の報告数

	タミフル服用 なし	タミフル服用 あり	計	確率値
3/20 以前	11	40	51	0
3/21 以後	16	2	18	
計	27	42	69	

10 代では通知前後で、タミフルの服用の有無別の異常行動報告数の比率が有意に変わっている。

表 5. 20 歳以上の報告数

	タミフル服用 なし	タミフル服用 あり	計	確率値
3/20 以前	1	2	3	NA
3/21 以後	0	0	0	
計	1	2	3	

表 6. 年齢別の報告数

	10 歳未満	10 代	計	確率値
3/20 以前	39	51	90	0.69

3/21 以後	17	18	35	
計	56	69	125	

通知前後で、年齢群別の異常行動報告数の比率が有意には変わっていない。

表 7. 迅速診断キット陽性例のみ（確率値）

	タミフル服用の有無
全年齢	0
10 歳未満	0.534
10 代	0

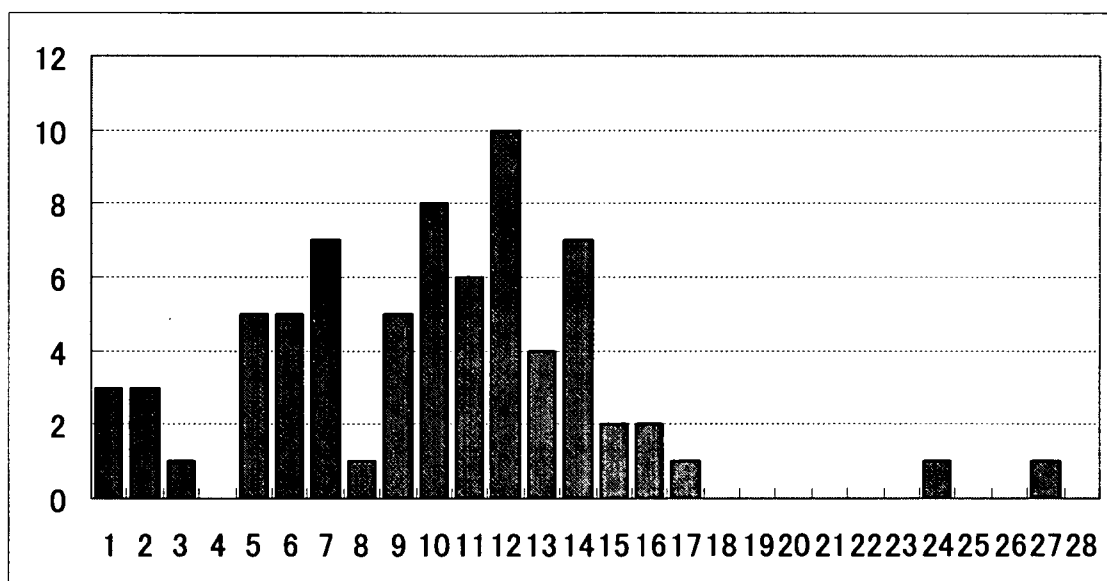
	年齢区分別
10 歳未満	0.533
vs10 代	

突然走り出す・飛び降りの方の分析

表 1-1. 分析対象データ

報告数	350				
重度	164		除外	対象	対象 2 (突然走り出す・飛び降りの方のみ)
重度のうち	2006/2007 シーズン前	5	27	137	72
	日時不明のうち該当外のもの	4			
	高齢者 (31 歳以上)	14			
	意識消失	4			
軽度	170				
不明	16				

図 1-1. 患者の年齢 n=72



平均値 9.93 中央値 10

図 2-1. 患者の性別 n=72

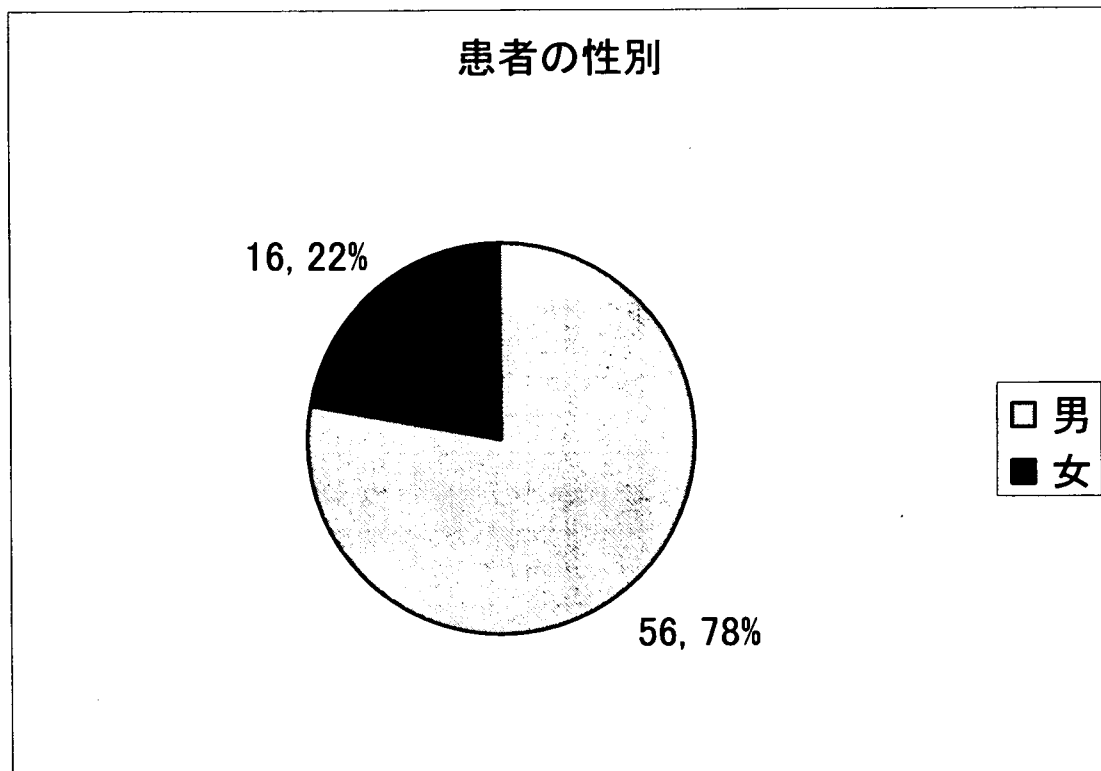
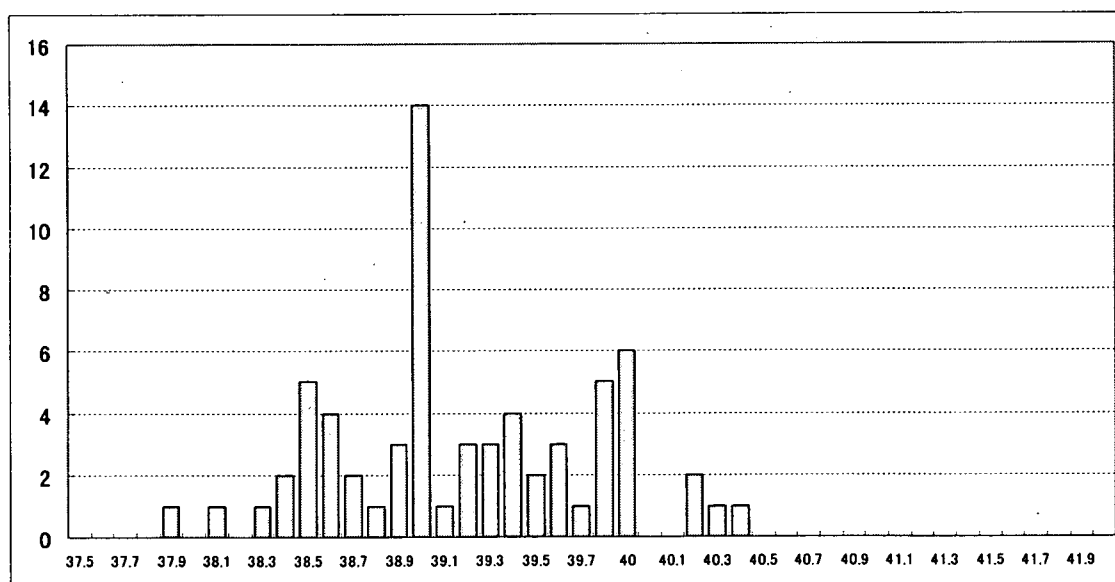


図 3-1. 最高体温 n=66



平均値 39.2 中央値 39.0

図 4-1. インフルエンザ迅速診断キットの実施の有無 n=72

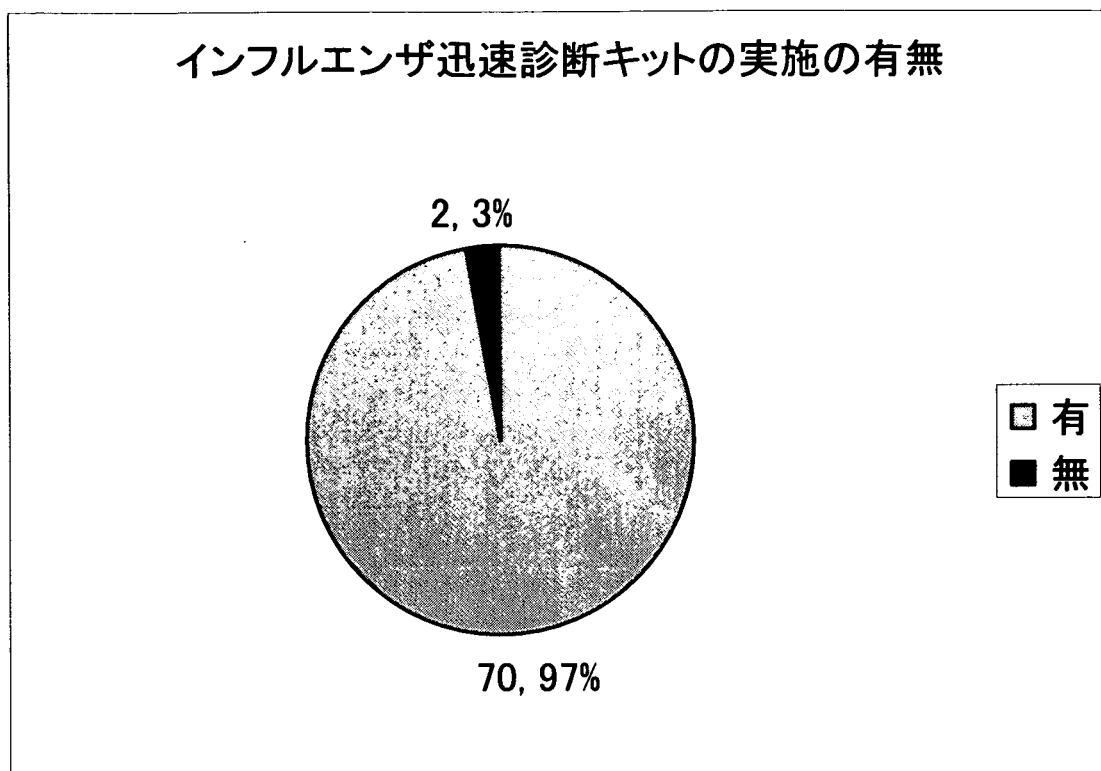


図 5-1. 迅速診断キットによる検査結果 n=70

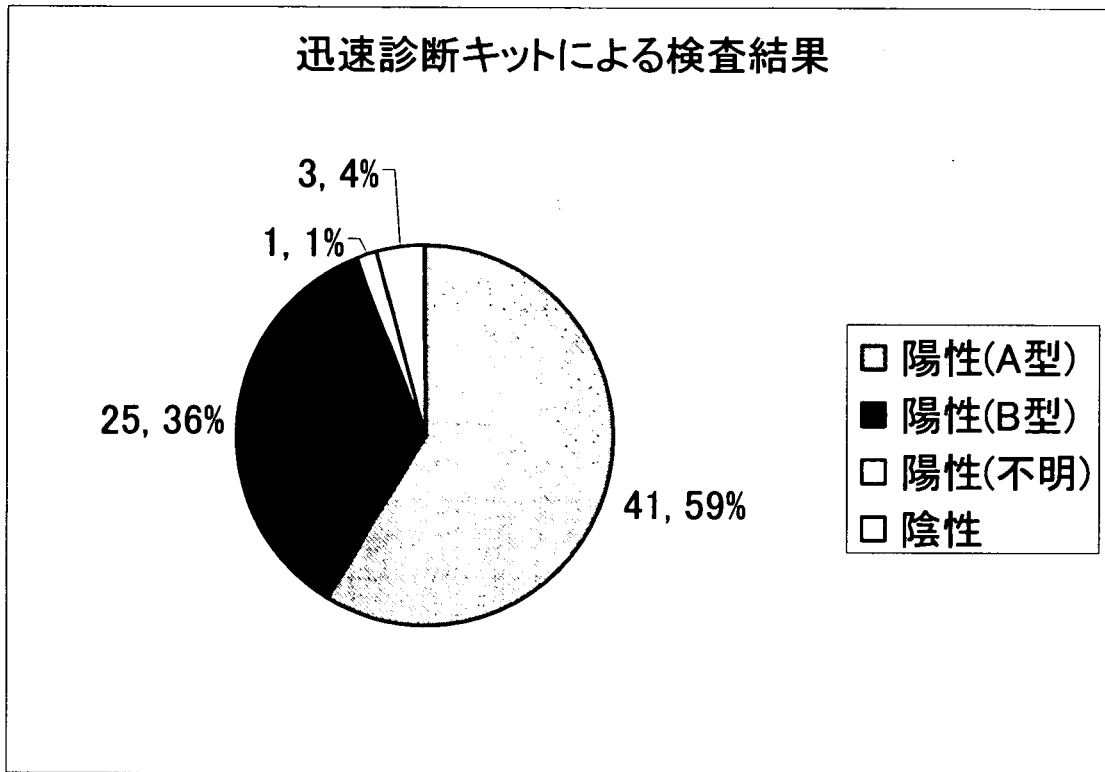


図 6-1. 罹患前半年間の予防接種歴 n=72

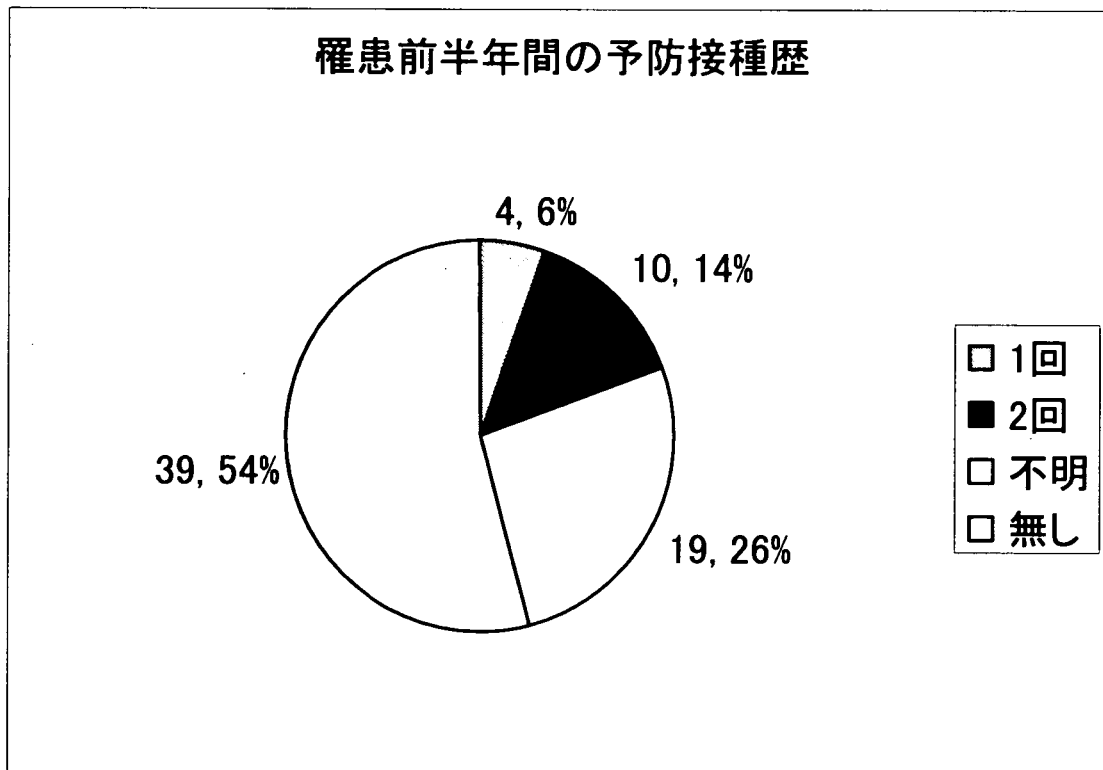


図 7-1. タミフル (リン酸オセルタミビル) 服用の有無 n=72

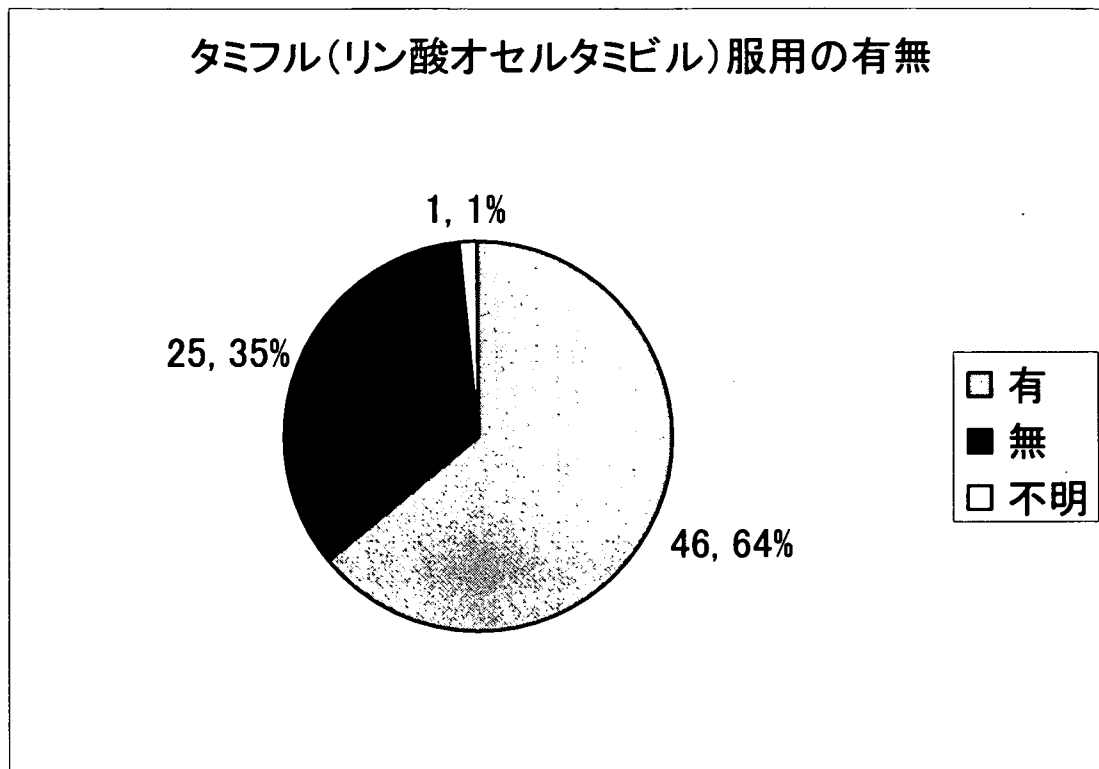


図 8-1. シンメトレル (塩酸アマンタジン) 服用の有無 n=72

### シンメトレル(塩酸アマンタジン)服用の有無

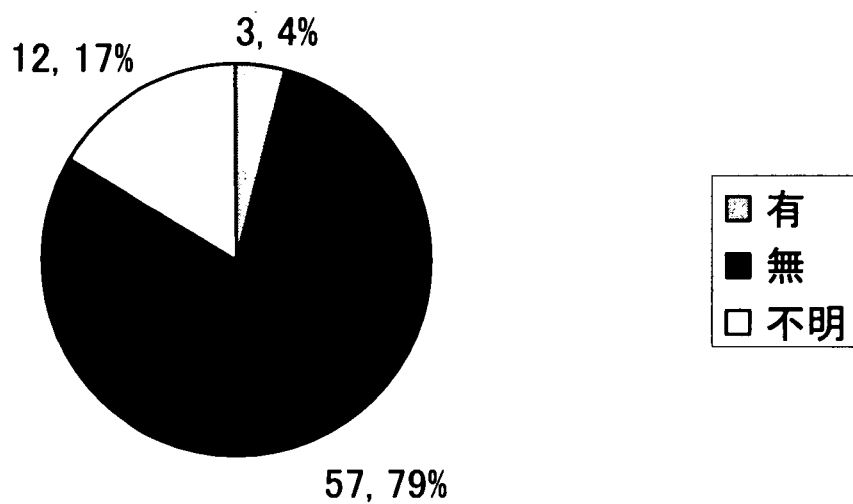


図 9-1. リレンザ (ザナミビル) 使用の有無 n=72

### リレンザ(ザナミビル)使用の有無

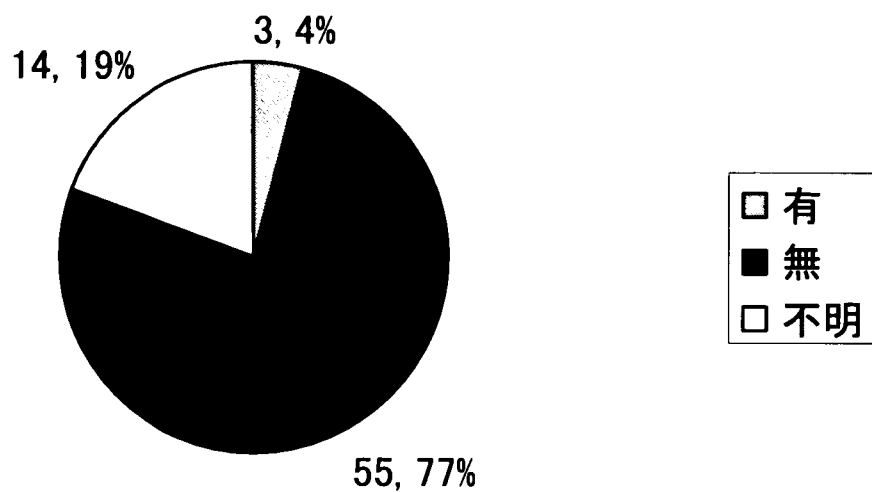




図 10-1. アセトアミノフェン服用の有無 n=72

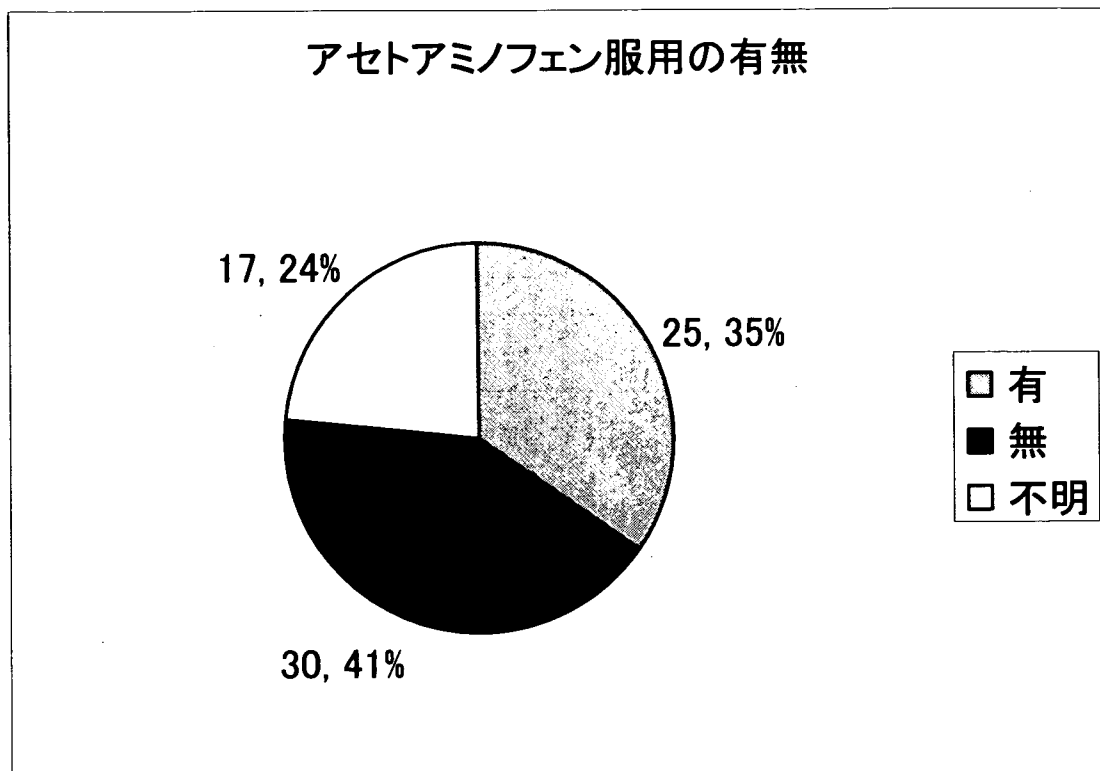


図 11-1. 異常行動と睡眠の関係 n=72

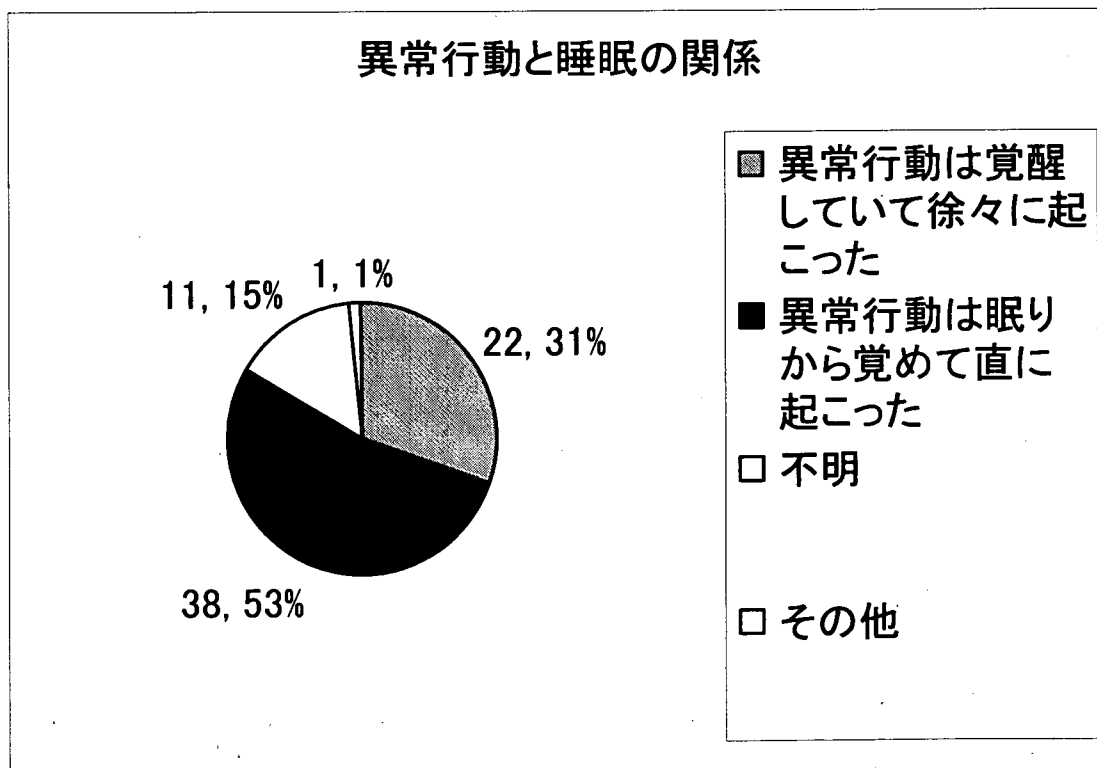
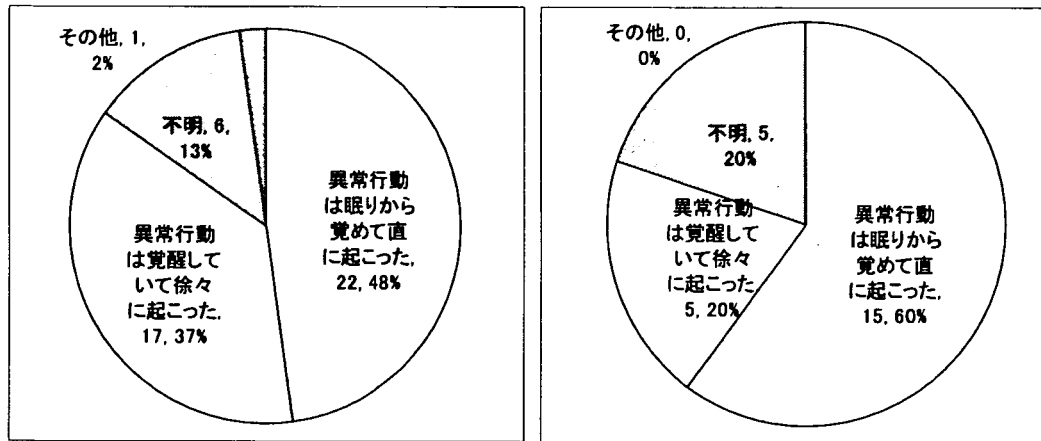


図 12-1. 「タミフル有無」と「異常行動と睡眠」の関係



タミフル服用有り群  
有意差なし

タミフル服用無し群

表 2-1. 30 歳未満の報告数

	タミフル服用なし	タミフル服用あり	計	確率値
3/20 以前	15	40	55	0.049
3/21 以後	7	5	12	
計	22	45	67	

通知前後で、タミフルの服用の有無別異常行動報告数の比率が有意に変わっている

表 3-1. 10 歳未満の報告数

	タミフル服用なし	タミフル服用あり	計	確率値
3/20 以前	7	16	23	0.543
3/21 以後	3	3	6	
計	10	19	29	

10 歳未満では通知前後で、タミフルの服用の有無別の異常行動報告数の比率は変わっていない

表 4-1. 10 代の報告数

	タミフル服用なし	タミフル服用あり	計	確率値
3/20 以前	7	23	30	0.057

3/21 以後	4	2	6	
計	11	25	36	

10代でも通知前後で、タミフルの服用の有無別の異常行動報告数の比率は変わっていない

表 5-1. 20 歳以上の報告数

	タミフル服用 なし	タミフル服用 あり	計	確率値
3/20 以前	1	1	2	NA
3/21 以後	0	0	0	
計	1	1	2	

表 6-1. 年齢別の報告数

	10 歳未満	10 代	計	確率値
3/20 以前	23	30	53	0.754
3/21 以後	6	6	12	
計	29	36	65	

通知前後で、年齢群別の異常行動報告数の比率が有意には変わっていない

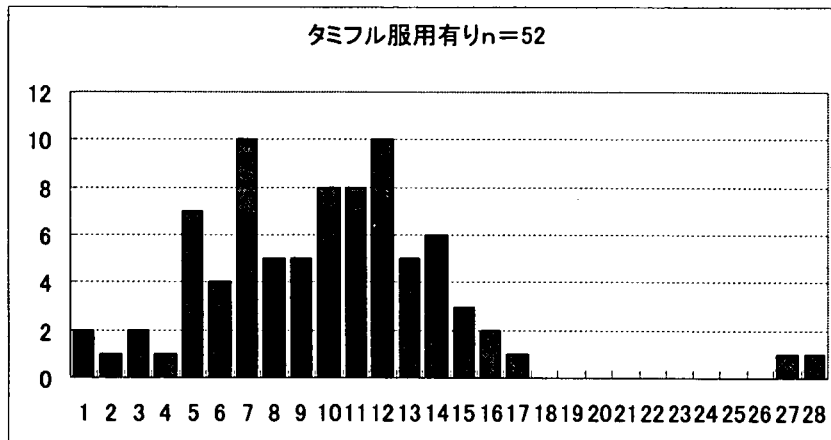
表 7-1. 迅速診断キット陽性例のみ（確率値）

	タミフル服用の有無
全年齢	0.034
10 歳未満	0.367
10 代	0.048

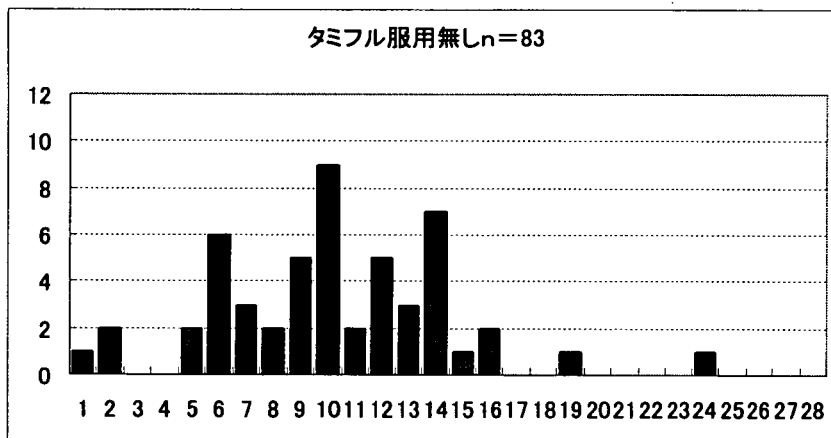
	年齢区分別
10 歳未満	0.751
vs10 代	

図 14. タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無と年齢 n=125（全標本）

\*タミフル服用の不明を除く

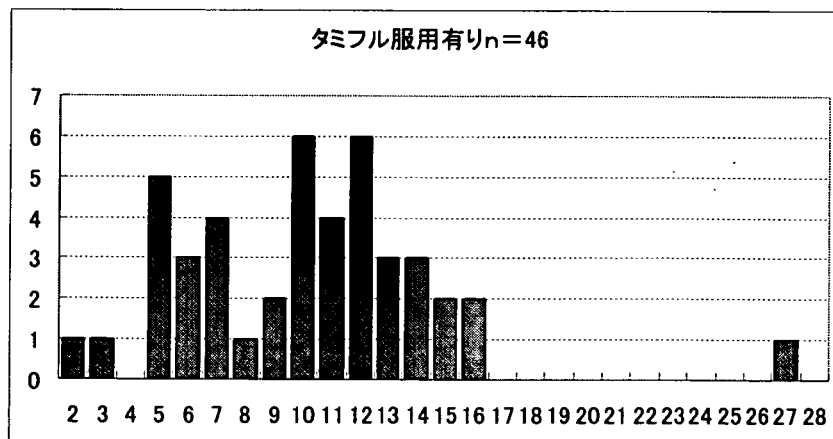


平均値 10.23 中央値 10

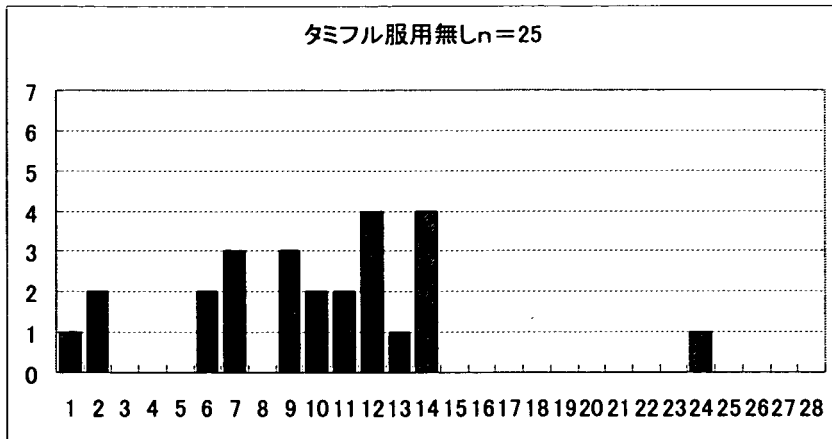


平均値 9.92 中央値 10

図 14-1. タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無と年齢 n=71（突然走り出す・飛び降りのみ）\*タミフル服用の不明を除く



平均値 10.23 中央値 10



平均値 9.92 中央値 10

図 15. アセトアミノフェン服用の有無とタミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無 n = 134（全標本）\*タミフル服用の不明を除く

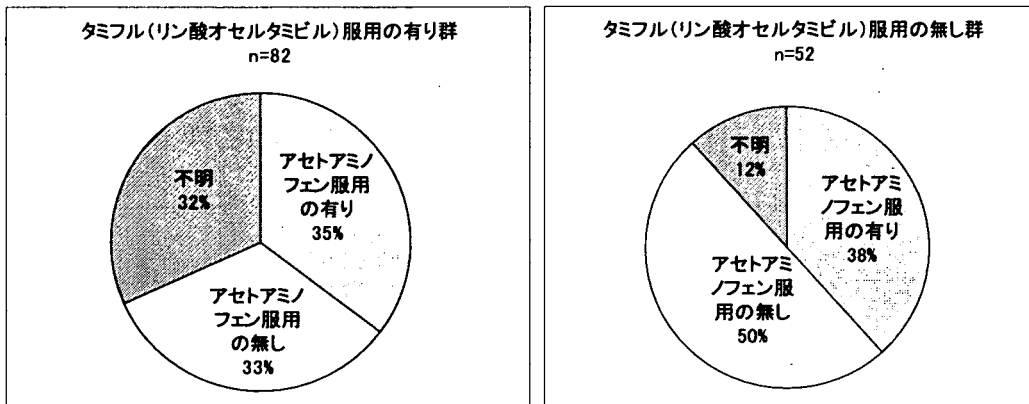


図 15-1. アセトアミノフェン服用の有無とタミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無 n=71（突然走り出す・飛び降りのみ）\*タミフル服用の不明を除く

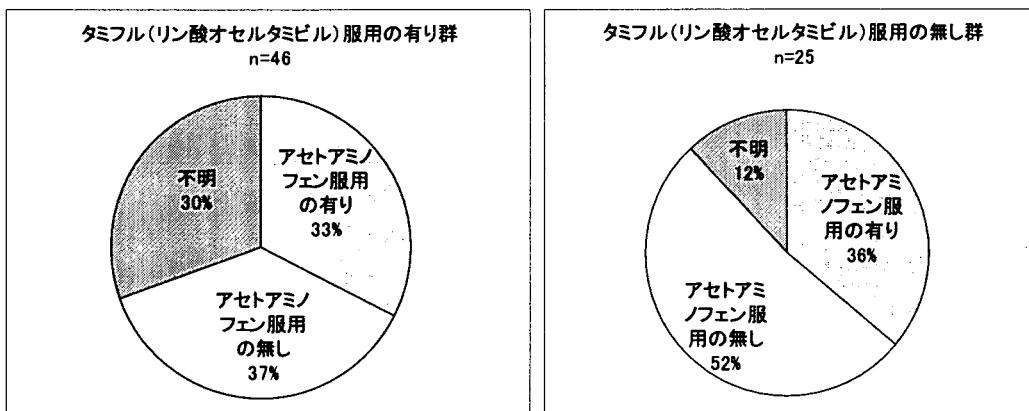


図 16. タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無と性別 n=137（全標本）

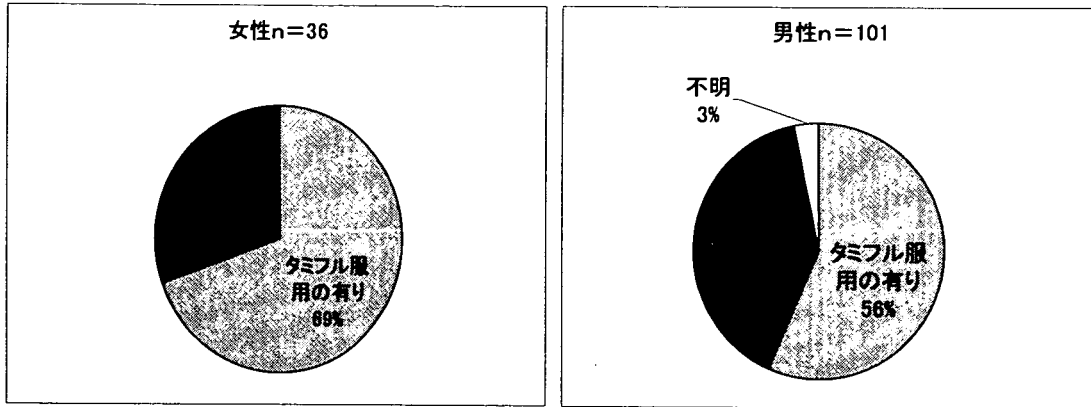


図 16-1. タミフル（リン酸オセルタミビル）服用の有無と性別 n=72（突然走り出す・飛び降りのみ）

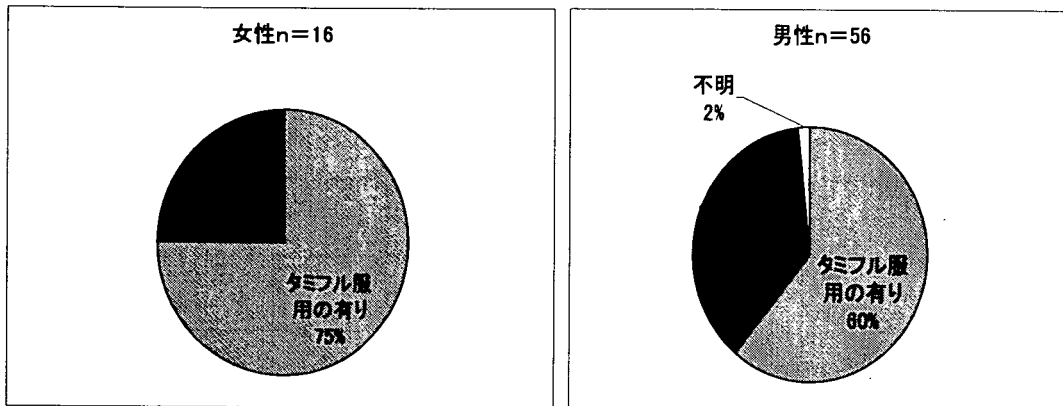


表 8. 通知前後における異常行動発症率

全標本			
(137 例の異常行動例／年齢別インフルエンザ患者総数推定値)			
	通知前の発症率／通知後の発症率	95%信頼区間	
20 歳未満	1. 532	[ 1. 037	, 2. 801 ]
10 歳未満	1. 585	[ 0. 897	, 2. 801 ]
10 代	1. 344	[ 0. 785	, 2. 300 ]
0-4 歳	2. 846	[ 0. 591	, 13. 700 ]
5-9 歳	1. 34	[ 0. 726	, 2. 475 ]
10-14 歳	1. 233	[ 0. 696	, 2. 186 ]
15-19 歳	1. 937	[ 0. 402	, 9. 326 ]

飛び降り・突然の走り出しのみ			
(72 例の異常行動例／年齢別インフルエンザ患者総数推定値)			
	通知前の発症率／通知後の発症率	95%信頼区間	
20 歳未満	2. 632	[ 1. 406	, 4. 925 ]
10 歳未満	2. 648	[ 1. 078	, 6. 503 ]
10 代	2. 371	[ 0. 987	, 5. 697 ]
0-4 歳	2. 033	[ 0. 394	, 10. 478 ]
5-9 歳	2. 827	[ 0. 957	, 8. 353 ]
10-14 歳	1. 944	[ 0. 800	, 4. 722 ]
15-19 歳	分析不能		

### Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表



書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
岡部信彦 米國小児科学会編集		岡部信彦	R-Book2006 最新感染症ガイド	日本小児医事出版社		2007	
宮崎千明 岡部信彦	予防		小児感染症学	診断と治療社	東京	2007	37-41
内山真		太田健、奈良信雄	今日の診断基準			2007	594-597
内山真	眠れない、どうしよう？(うつ病も含む)	寺内康夫	現場の疑問に答える糖尿病診療Q&A			2007	339-341
内山真	不眠・うつ状態の患者にはどう対処すればよいでしょうか？	寺内康夫・羽倉綾子	現場の疑問に答える糖尿病療養指導Q&A			2007	270-272
内山真	てんかん	大塚敏男・上林靖子・福井進・丸山普	心の病気を知る事典			2007	

論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小林慈典、富樫武弘、水口雅、宮崎千明、高山高志他、河島尚志、木村宏、奥村彰久、栗原まな、黒木晴郎、塩見正司、布井博幸、細矢光亮、鍵本聖一、森島恒雄、横田俊平	インフルエンザ脳症特殊治療の全国調査	日本小児科学会雑誌	111 巻 第 5 号	659-665	2007
金野倫子、内山真	認知症と睡眠についてのトピックスーレビー小体型認知症と睡眠	Cognition and Dementia	Vol.6 No.2	52-59	2007

金野倫子、河合真紀子、森宏美、松崎陽子、内山真	女性外来診療マニュアル	産婦人科治療	Vol.94 増刊	302-308	2007
内山真	睡眠障害の診断と治療	yearnote 2008 別冊	SELEC TED ARTICL ES	1603-1619	2008
内山真	不眠症とその近接領域	精神医学	第49巻 第5号 別冊	487-498	2007
内山真	高齢者によくみられる睡眠障害と治療	Geriatric Medicine (老年医学) 6月号	Vol.45 No.6	733-738	2007
内山真	不眠を訴える患者へのアプローチ	medicina	第44巻 第7号 別刷	1242-1245	2007
武村史、神林崇、井上雄一、内村直尚、伊藤洋、内山真、武村尊生、清水徹男	不眠症の治療による日中のQOLの改善	治療	Vol.89	2376-2380	2007
金野倫子、内山真	高齢者における睡眠障害とせん妄—その連続性に着目して鑑別と治療を考える—	精神科治療学	Vol.22 No.9	991-1000	2007
武村真治、大井田隆、兼板佳孝、内山真	睡眠障害の経済的評価	Geriatric Medicine (老年医学) 6月号	Vol.45 No.6	679-685	2007
内山真	期待される新規作用機序の睡眠障害治療薬	臨床精神薬理	別冊	2035-2045	2007
内山真	睡眠障害の診断と睡眠薬の使い方	日本医師会雑誌	第136巻 第8号	1511-1515	2007
内山真	季節性感情障害と睡眠	睡眠医療	Vol.2 No. 1 (通巻 第5号)	39-44	2007
土井由利子、岡靖哲、堀内史枝、大川、内山真	子供の睡眠習慣質問票日本語版	睡眠医療	Vol.2 No.1	83-88	2007
内山真	不眠・睡眠不足とメタボリックシンドローム	医学のあゆみ	Vol.223 No.10	837-841	2007

内山真	1. 精神症状 8. 睡眠障害	臨床精神医学	第36巻 増刊号 別冊	98-103	2007
内山真	睡眠を調節する2つのメカニズム	薬局 別冊	Vol.59 No.1	3-7	2008
内山真	睡眠障害治療に有用な臨床検査	精神科治療学	23	47-53	2008

## IV 研究成果の刊行物・別刷